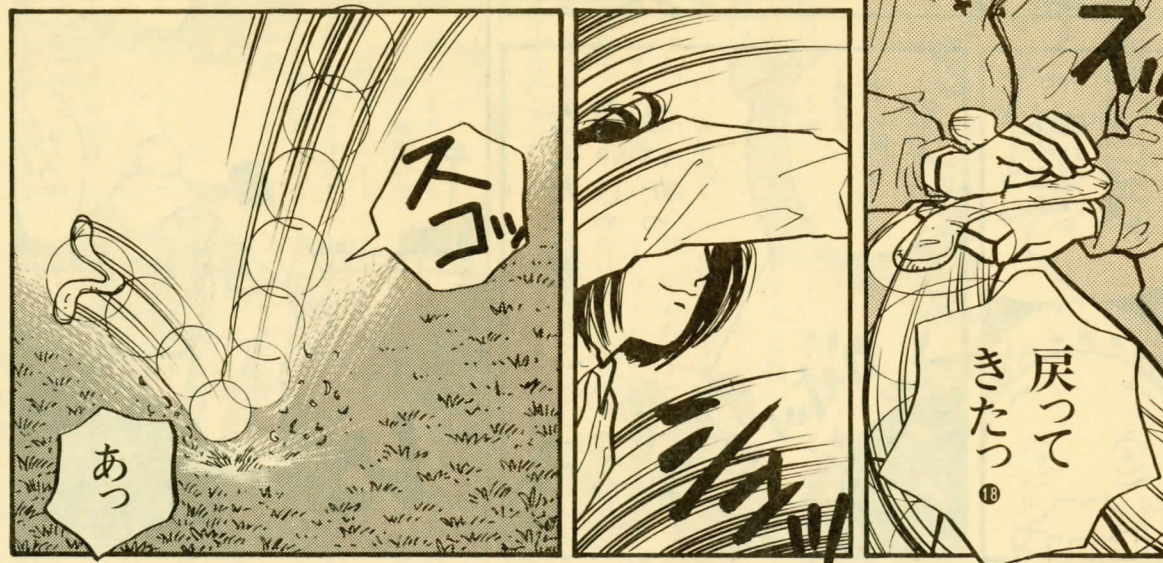
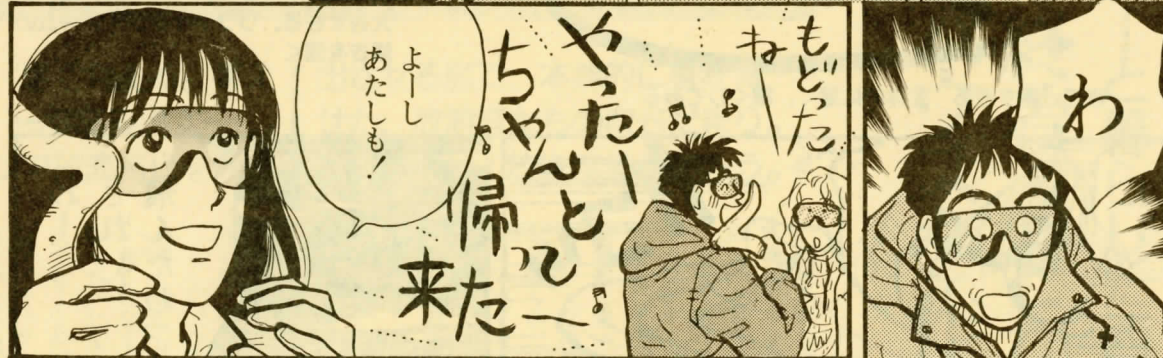
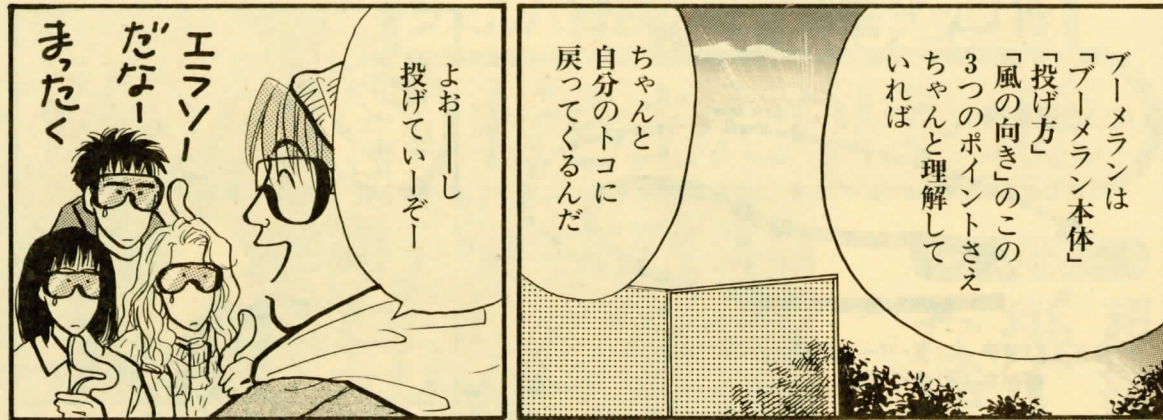


18 戻ってきたブーメランをキャッチする方法。ブーメランが胸の高さかそれより下にくるまで待つ。手のひらを広げ、左手を下にし、手でキャッチ。ショックを和らげるために腕を自分の方向に引く。
もし、ブーメランが、速く戻って来たり、鋭い角度で落ちてきたら、キャッチしないで避ける。

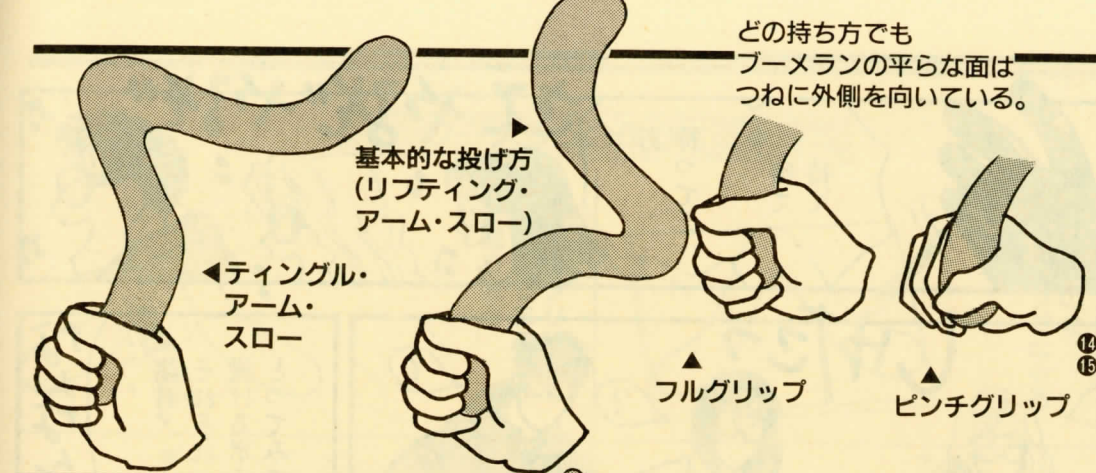
19 ブーメランのチューニング(修正)の目安だが、
●軌道が広がってしまう…リフティング・アームの傾きを強くすると軌道が狭くなる。
●スピンのかかりすぎて、手前で着地してしまう…リフティング・アームの傾きが強すぎるため、ポリエステルのパテを塗るか、プラスチック材をはりつける。
●飛行の後半で、高度が下がり地面に落ちる…ディングル・アームの傾きを少し削る。または、リーディング・エッジの裏を紙やすりでこする。
●左に旋回せずに高く舞い上がってしまう…表面の傾斜部と両端を削り、角度をきつくする。
●軌道の外へ飛んでいく…ディングル・アームのほうに紙やすりをかけ、リーディング・エッジを丸くする。
●遠くまで行き、戻ってくる途中で落ちる…ブーメランが重すぎる。全体的に少し薄く細くする。
●Sの字形の軌道になってしまう…リフティング・アームの傾きを強くする。

20 ブーメランの平らな面を一部分削ることは、絶対必要なわけではないが、それだけ翼が薄くなるので抵抗が少なくなり揚力が増すことになるらしい。
Tさんは自分のブーメランでは平らな面は削らないが、指導をするとき、戻ってこない人のブーメランを削ってやると、戻ってきたことがあるという。

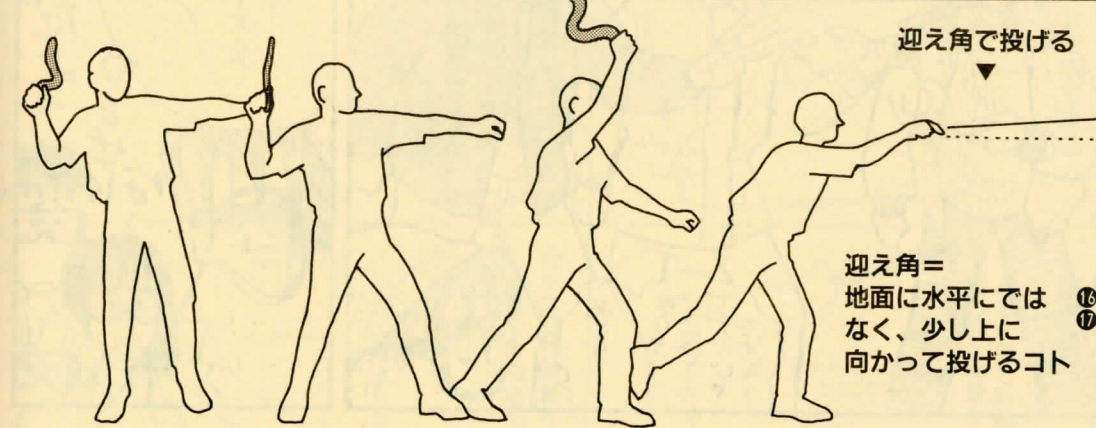
21 日本で競技大会も開かれている。日本ブーメラン協会(〒102東京都千代田区九段北1-15-5)へ申し込みれば誰でも(子供から大人まで)会員になれば、大会に参加できる。上手な人の投げ方を見るのは、いちばんの上達法だという。



正しい握り方



正しい投げ方

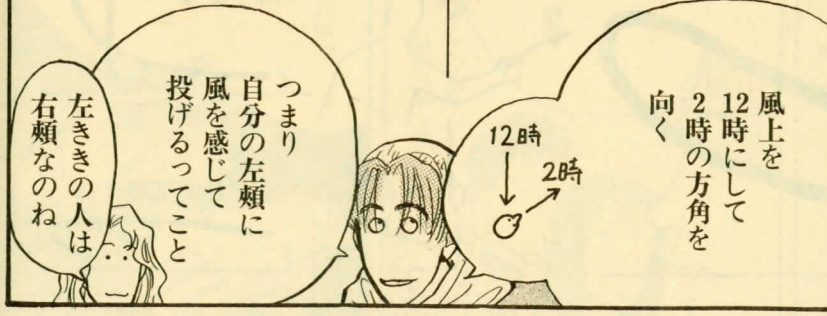
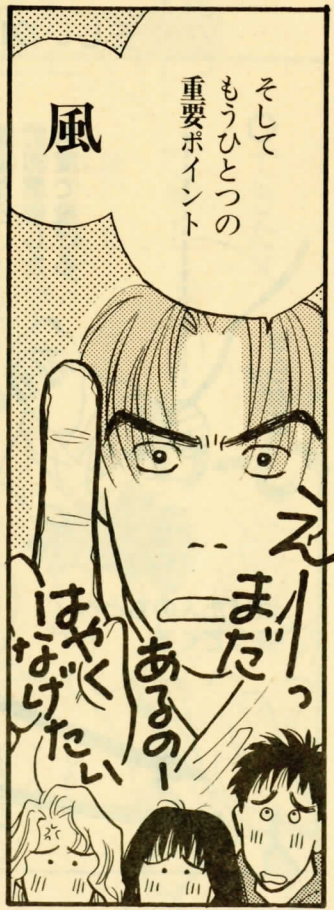
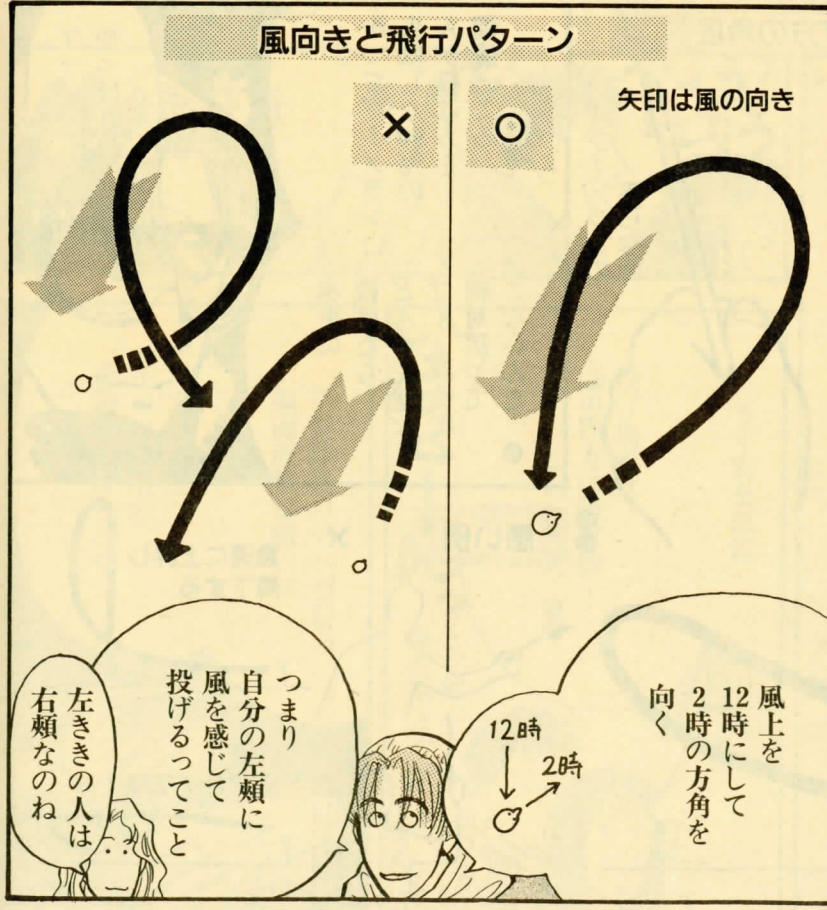


14 ブーメランの握り方は基本的に2種類ある。
●フルグリップ 小指の上にブーメランをのせ、他の4本の指はブーメランに巻きつけて、指全体で握る方法。
●ピンチグリップ 親指と人さし指でブーメランをはさむようにして持つ方法。

15 ブーメランの構え方が2枚の翼のどちらを持つてもよい。
ほとんどは先導翼(リードウイング)を持ち、肩越しにブーメランがVになるように構える。(リフティング・アーム・スローともいう)大きく旋回し、速いスピンをブーメランに与えることができる。
また、先導翼が肩のうしろにくる後続翼を持つ方法(ディングル・アーム・スロー)は、前向き強い力を与えるのでリフティングアームスローよりも長距離飛行をする。

16 ブーメランの投げ方だが(右きき用。左ききは、③が反対になる)、ポイントは①ブーメランの平らな面が、外側にくるように構える。②地面から60度、傾けて縦に投げる。
ブーメランが高く上がりすぎたら、もう少し垂直に近くなるように。上から地面に落ちてしまふなら60度よりも少し水平に近く投げる。
③風の吹いてくる向きに対し右45度の角度に投げる。
④肩は肩のうしろから、直線になるように投げる。
⑤目の高さに向けて、投げる(目よりも高くも低くもなく)。これらの原則を守れば、確実にブーメランは自分のもとに戻ってくる。

17 ふたり以上でブーメランを投げるとき、ほかの人の投げたブーメランに注意したい。
思いもかけないところから飛んできたブーメランは、危険である(とくに頭部)。時速は100km以上になるというものだから、指に当たっても、けっこう痛いのだ。
必ず声をかけあったりすること、さらにゴーグルをつけて、目、鼻を保護する必要がある。
また、手袋(左手にする)で指を保護するのもよいだろう。





行きあたりばっ旅

第38回

超長期滞在型キャンパーと暮らした西表島の日々

幾人もの旅人の終着点となった島で、なぜかビニールハウスを作ってしまった!



頭ではなく、足で考える。考えるより先に、一歩踏み出す……。あてなきアジア放浪時代を思い

出させる島で、本能的に身を寄せた、放浪者たちの吹きだまり。僕らはなぜ、旅をするのだろう。

新城島から西表島に戻ったばかりは、昨晩テントを張った南風見田ビーチに帰って歩き始めた。本来なら今日から3日間、新城島でキャンプするはずだった。しかし、島に滞在できたのは、わずか15分間だけ。郵便船に乗って新城島に上陸するまではよかったのだが、島の長老に「帰れ」と怒鳴られ、3日分の食料などが入った自分宛ての小包ともども退散したのがある。

西表島の大原港に戻ったときは悔しかったが、時が経つにつれて興奮が冷め、シヨックから立ち直ることができた。そして歩き始めたらますます清々しい気分になり、いい経験ができてよかったと思えるほど、ポジティブな思考に切り替わった。「そうだ、今度から落ち込んだり、悩んだりしたら歩くことにしよう」

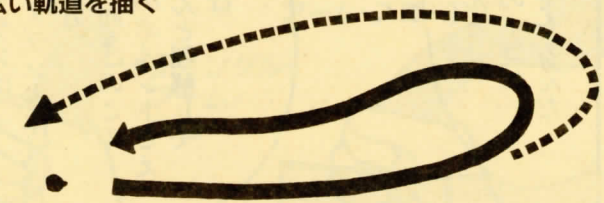
頭ではなく、足で考える。その場に行きたいならいつでもその世界から脱することができない。歩くことで次なるステップへ飛躍することができ、異性や仕事関係などでトラブルが生じたとき、歩きながら話し合ってみたら、きっと前向きな解決策が得られるんじゃないだろうか。

「そんなことを考えながら、ぼくは大原から南風見田まで6kmの道程を歩き続けた。小包に加えて缶ビールまで買ったものだから、ザックの重量は5kg以上増え、客観的にみても大変なはずなのに、歩くのが楽しかった。舗装道路が終わると、その先は原生林に覆われたジャングルのトンネルだ。トンネルの先には黄金色をした砂浜と青い海原が広がっている。南風見田ビーチ。かつて日本全国を放浪した友人が、ベスト・キャンプ場のひとつに挙げた、不思議な魅力が秘めたビーチである。ここには東屋式の休憩所があるだけで、トイレすら台風で破壊されて使えない。だいたいから、ここはキャンプ場ではなく、キャンプは一応禁止されているのだ(地元の人には黙認しているが)。

にもかかわらず、何か月、何年と長期滞在している猛者キャンパーが何人も存在する。長期放浪型自然派志向貧乏旅人の聖地のような場所だ。ぼくは4年半ほど前にここを訪れているし、昨晩もここにテントを張った。しかし、それはたったひとりで、キャンプとも挨拶的な会話を交わしただけだったため、旅人を長期にわたって釘付けにする魅力が完全に味わっていない。今回、予定が狂って3日間滞在できることになったので、その魅力の一端に触れてみたいと思った。東屋では、昨日と同じように長期滞在しているキャンパーが横笛を奏でて

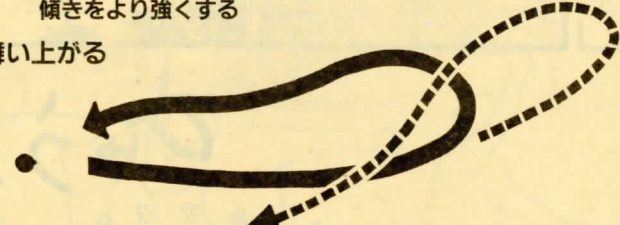
ブーメランの修正 ①②

広い軌道を描く



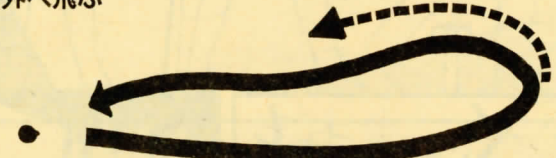
修正→リフティング・アームの傾きが不十分、傾きをより強くする

高く舞い上がる

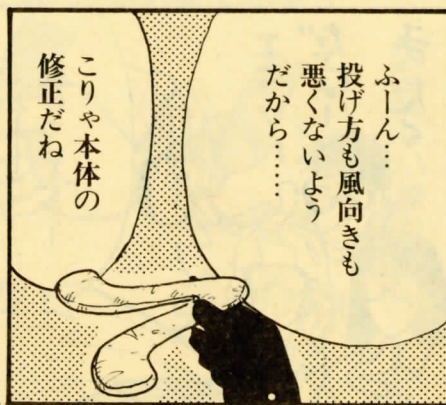


修正→両方のアームの傾きが不十分、削り角度を少々きつくしてみる

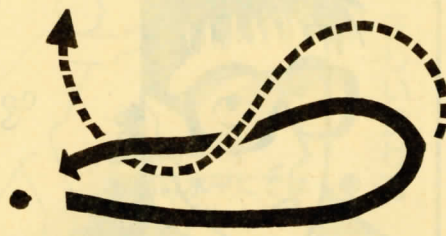
軌道の外へ飛ぶ



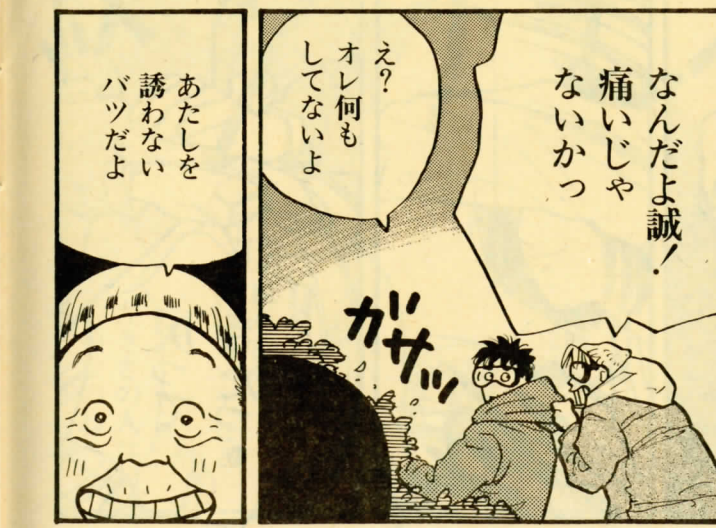
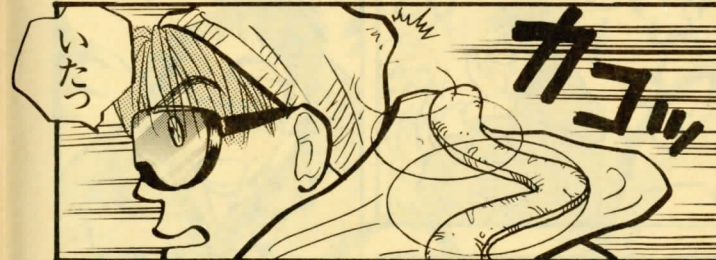
修正→重すぎる 全体的に薄く、細くしてみる



〇ではなくS字軌道を描く



修正→リフティング・アームの傾きが不十分、ディングル・アームの傾きが大きすぎる、リフティング・アームの傾きを強く



BE-PAL MANUAL COMIC

同化して鳥になる

ちんぷない様だが、自分で削り出したブーメランの動きを目で追っていると、ふうっとそいつに同化して、自身で飛んでる気になる瞬間がある。浮揚感

木で、10ほども作ってしまった。ひとつひとつ飛び方に個性があって、飛ぶ音も違う。人に貸して、乱暴に投げられると、はらはらしている自分に苦笑。(拓)

次号予告

ニュー・スポーツ・シリーズ第3弾は、インライン・ローラーだ。もともとはアイススケート選手というこのギアが今、人気急上昇!! というわけで老若男女こそって遊べるローラー教室だ!!

取材協力: 関根秀樹、西山豊(大阪経済大学助教授)、梅井晴弘(大阪経済大学ブーメラン研究会OB)
参考文献: 『ブーメランはなぜ戻ってくるのか』(ネスコ/文藝春秋)、『ALL ABOUT BOOMERANGS』(ラングスジャパン)、『原始生活百科』(創刊出版)、『原始技術史入門』(新生出版)